

新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した

地域住民等による福祉活動・ボランティア活動の進め方

2020年10月20日
静岡市社会福祉協議会

ボランティア活動における新型コロナウイルス感染拡大防止の留意点(共通事項)

(1) 感染の危険箇所、場面などの確認

- 主な感染経路は接触感染と飛沫感染
- 接触回数が多い箇所や備品、場面等(特に他者と共有する備品や複数の手が触れる場所)を洗い出し、重点的に消毒する

(2) 活動中の取り組みについて

- 備品・消耗品を準備する(消毒液・ハンドソープ・ペーパータオル・体温計・マスク・手袋・ゴミ袋等)
- マスクまたはフェイスシールドの着用を徹底する
- 室内においては1時間に2回以上の換気をする
- 人と人の間隔を2m(最低1m)空け、会話する際は正面に座らない。
- 参加者名簿および体調管理チェックシートを用意し、活動開始前に記入してもらう
- 対象者およびそのご家族に発熱(37.5℃以上、もしくは平熱+1℃以上)、風邪の症状(息苦しさ、強い倦怠感、喉・咽頭痛など)がある場合は発症後一週間の間参加を見合わせる。症状の重症化または軽度の症状が4日以上続く場合は、帰国者・接触者相談センター等に必ず相談する。
- 感染者が確認された場合、接触確認アプリの活用を呼びかける
新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA) COVID-19 Contact-Confirming Application
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/cocoa_00138.html
- 聴覚障害または難聴等の方に対してはフェイスシールド等で対応する
- チラシなどでルールについて周知・訪問時に説明する
- 別紙「新型コロナウイルス感染症についての相談・受診の目安」に該当する対象者、ボランティアがいた場合



本人から保健所に相談・指示を仰ぐ ⇒ 受診の指示などあった場合はその指示に従う ⇒ 団体へ報告

- 独り暮らしなど気になる対象者、ボランティアについては、必要に応じて電話で安否確認など行う
社協は必要に応じて包括などに繋げる

(3) 活動終了後

- 使用した備品等を消毒する
- 会場を清掃し消毒する
- 清掃時やごみの廃棄作業時はマスクや手袋の着用を徹底する
- 作業後および帰宅後は手洗いを徹底する

活動ごとの具体的な対策

① 集合型支援(サロン活動等)

- 入口に手指消毒液や体温計、手洗い場にハンドソープやペーパータオルを準備する
- 受付前は 2m 間隔に目印を付ける
- 受付付近に参加ルールを掲示する
- 入口で検温する
- トイレについては以下に留意する
 - ・不特定多数が接触する箇所は消毒する
 - ・トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示する
 - ・ペーパータオルの設置
 - ・便器内の清掃は通常どおり行う
- 新型コロナウイルスの終息までは、歌をできる限り控える。BGMを流す際はおしゃべりの邪魔にならないよう音量に気を付ける。
- マイク設備がある場合は大声を出すのを防ぐためマイク・スピーカーの準備をする。マイクは使用の都度消毒する
- 屋内では息が荒くなるような運動は避ける。晴れた日には屋外の散歩、体操などを組み合わせる。なお、屋外で人と十分な距離(2m以上)を確保できる場合は、マスクをはずしてもよい。
- マスクを着けての運動は、マスクをしないときに比べて身体への負荷が著しく大きくなるため、無理のないよう負荷を下げたり、休憩を取るなど配慮する。心配な参加者には、あらかじめかかりつけ医の意見等聞くよう促す。
- 飲み物は各自持参してもらう。
- チェックリストを用いて取り組みをチェックする
- 気温が高い季節は熱中症予防のためペットボトル等で飲料水を用意し、食べ物は加熱したものを使用する
- 欠席や、参加しなかったりした参加者に対しては、必要に応じ、市区町村社協の職員等と連携し、状況の把握や参加の呼びかけなどを活動に取り組む団体に促す。
- 地域の感染状況等により再開が難しい場合、ビデオ、チラシ、ケーブルテレビ、SNS等を活用し、自宅で運動できる映像・資料等を配布・配信する。
- 休止中は訪問とともに、電話・はがき・メール等接触を回避した方法を組み合わせ、利用者の孤立を防ぐ工夫を検討するよう団体に促す。
- 県外から親戚や友達が来た時や、感染拡大地域を訪問した時は、念のため 2 週間は体調を整えるよう、参加者に促すとともにボランティアにも周知する。

② 訪問・見守り活動

- 各戸訪問、面会の際は、玄関ドアノブ、インターホンなど手指が触れる場所を消毒する
- 見守り、傾聴の頻度(時間)は状況によって検討する
 - 1 入室を控える⇒ドア越し・インターホン越し・窓越し
 - 2 入室する⇒短時間で 60 分→30 分 ※手紙、電話、メールの活用
 - 3 活動日に使う消耗品を準備する(アルコール消毒・ペーパータオル・体温計・マスク・ゴミ袋など)

③ 子どもを対象とした活動

- おもちゃや遊具などの消毒は頻回に行う。おもちゃなどの共用はできるだけ避け、使用の都度消毒する。
- 鼻水やよだれなどを拭いたティッシュ等のごみは、袋に入れ家庭に持ち帰るよう促す。
- 熱中症予防のため、飲み物を必ず持参してもらい、給水を適宜促す。
- 保護者同士が会話を楽しむために、マスクの着用や十分な距離の確保を促す。
- 外遊び等は保護者の準備のため、予告したうえで実施する。
- 公園など屋外での活動は、事故やケガの危険があるため、子どもたちの様子を常に監視する担い手を必ず配置する。
- 子育てサロンの休止は、保護者に大きなストレスをもたらすため、対面の子育てサロンの代わりにWEB会議システム等を活用したオンラインサロンを導入することも検討する。

④ 移送サービス

- 乗車中はマスクの着用を運転者、利用者双方に徹底し、窓を常時開け換気を行う。
- 運転席と後部の座席との間にビニールシートで仕切ることも検討する。
- 運転者と利用者の座席間隔をできるだけ空け、身体的距離の確保がされるように着席する。
- サービス終了後は十分に車内の換気を行い、利用者の接触頻度が高い場所(ドアや背もたれ等)を消毒する。

⑤ 住民参加型在宅福祉サービス(生活支援等)

- 支援の重要性や緊急性をもとに訪問ケースを精査する。
- 居宅で支援を実施する際、手洗い・手指消毒、咳エチケット、身体的距離の確保の徹底をする。
- 居宅において支援する場合、短時間に効率的に業務が行えるよう、手順等を事前に確認する。
- 居宅での支援中は、換気を行う。
- 利用相談に当たっては、初回の面接など対面で対応を行う必要がある場合を除き、電話等による対応を積極的に活用し、相談員等と相談者の接触の回避に努める。
- 初めてサービス利用する場合、ニーズを精査し、不要不急な場合、当分の間、利用待機をしていただく。

⑥ 子どもの学習支援

- 座席の配置は、横並びで座ったり、正面で向き合わないなど身体的距離の確保をする。
- 学習支援の実施に関しては、対面以外の実施方法として、学習教材の配布による対応、メールや電話、WEB等を活用して支援員が助言・指導を行う方法など、感染状況等に応じて工夫する。

⑦ 子ども食堂等食事支援

- 座席の配置は、横並びで座ったり、正面で向き合わないなど身体的距離の確保をする。
- バイキング形式、大皿から取り分ける食事は避け、担い手が一人ひとり食器に食事を盛り付ける。
- 菓子は個別包装されたものに変更する。
- 手や口が触れるようなもの(食器やコップ、箸など)は、ゴム手袋などで感染を防止しながら洗剤で適切に洗浄する。使い捨ての食器等の使用も検討する。
- 食事中は大きな声で話さないよう参加者に促す。
- 集合型で食事支援を行う方法以外のものとして、弁当等の配食、食材配布、テイクアウト方式等感染状況等に応じた対応を行う。その際、食中毒等の衛生管理に十分配慮する。(食支援活動協力会『子ども食堂あんしん手帖 食品衛生・食物アレルギー・食育活動』参照)
- 発熱等が認められる場合には、利用を断り、パック詰めするなど衛生管理に配慮して食材を持ち帰らせる。

参考 【子どもを対象としたサロン活動における活動当日チェックリスト(例)】

活動前	<input type="checkbox"/> 活動前の担い手の体温測定。(37.5℃以上は参加不可)
	<input type="checkbox"/> 担い手にマスク着用、手洗い・手指消毒を徹底する。
	<input type="checkbox"/> 入口等に手指消毒液、体温計を配置する。
	<input type="checkbox"/> 受付前に2メートル間隔に印をつける。
	<input type="checkbox"/> 手洗い場にハンドソープ、ペーパータオルを配置する。
	<input type="checkbox"/> 窓や入口を開けて換気を行う。
	<input type="checkbox"/> 利用前に会場、トイレ等を消毒液で拭き掃除をする。
	<input type="checkbox"/> 利用前にオモチャ・遊具等を消毒液で消毒をする。
	<input type="checkbox"/> 受付名簿・筆記具を準備し、参加ルールを掲示する。
活動中	<input type="checkbox"/> 参加者名簿に一人ひとり記載(初めての参加者からは連絡先を記入)する。
	<input type="checkbox"/> 受付で参加者の体調確認を行う(37.5℃以上は参加不可)。
	<input type="checkbox"/> 参加者に手洗い・手指消毒、マスク着用、咳エチケットを注意喚起する。
	<input type="checkbox"/> 身体的距離を確保する。人と人との距離を2m(少なくとも1m)以上とする。
	<input type="checkbox"/> 会話をする際は、互いに正面を向き合わないよう促す。
	<input type="checkbox"/> 熱中症防止のため参加者・担い手双方に水分補給を促す。
	<input type="checkbox"/> オモチャの共有はしないよう促す。使用の都度消毒する。
	<input type="checkbox"/> 重点消毒個所を適宜消毒する。
	<input type="checkbox"/> 1時間に2回以上換気する。
	<input type="checkbox"/> ゴミは持ち帰るよう促す。
<input type="checkbox"/> 帰宅後の手洗いを利用者促す。	
終了後	<input type="checkbox"/> 会場を清掃し、消毒する。
	<input type="checkbox"/> 清掃時やごみの廃棄作業時はマスクや手袋の着用を徹底する。
	<input type="checkbox"/> オモチャ、遊具等を消毒液で消毒をする。
	<input type="checkbox"/> 終了後、帰宅後の手洗いを担い手に促す。

(参考資料)

社会福祉法人全国社会福祉協議会「新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した地域住民等による福祉活動・ボランティア活動の進め方」(2020年7月22日)